新型コロナ禍に対する法政大学での取組み
ー今後の高等教育の方向性と問題点を踏まえてー

2021年1月29日(金)@オンライン 立命館大学
「新常態(new normal)における高等教育の展望」シンポジウム

法政大学　総長室付大学評価室長　理工学部 教授
川上　忠重

アウトライン

- **立ち位置の確認**
- 法政大学での取組みから
  - 2020年度春学期「オンライン授業に対する学生対象調査」
  - コロナ禍の法政大学での2020年春・秋学期の取組み(一部：例)
  - Withコロナ時代を考えるワーキング
- 令和2年度オンラインFD推進ワークショップでの各大学の取組み
- 今後の方向性と問題点
- まとめにかえて

法政大学

立ち位置の確認

法政大学理工学部機械工学科　教員(法政大学工学部出身)

1993年に専任講師で着任　**＊専門は燃焼工学**

2007年～2008年　法政大学FD推進プロジェクト・リーダー

2009年～2012年　法政大学FD推進センター長

2013年～2018年　法政大学FD推進プロジェクト・リーダー

＆学生FD担当教員

2017年～現在　**法政大学総長室付大学評価室長**

外部委員　一般社団法人日本私立大学連盟

・教育研究委員　・FD推進ワークショップ運営委員会他

法政大学

授業の進め方と方法（1）＊基礎熱学ガイダンスより

1. 2020年度秋学期の**授業開始の基本方針**に従って、授業を実施します。＊基本方針：「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」
レベル3から開始します。10月5日(月）から**レベル2**になります。**＊1月18日(月)からレベル3**に戻りました。

☆彡：**原則として授業は、オンライン授業で実施する。**少人数受講生の講義、演習、実験・実習は、感染防止に最大限注意して、対面により実施することができる。

→基本方針の変更まで、基本的に教材配布、演習課題、ZOOMによる簡易授業を実施する。

＊先週で14回の秋学期の授業が全て終了しましたが、状況に著変なし

異常事態の継続化→新常態(new normal)時代の教育・研究

法政大学

新常態(new normal)を検討するうえで、何に着目するか？
現状を**「異常」**と考えた場合、工程管理的な視点なら、

「異常とは？」
要因系：**作業工程**がいつもと違う。 音、色、手触り、速度が違う。
→対面授業、オンライン・オンデマンド、ハイブリッド授業
＊授業の科目種だけでなく内容含めた類型化の重要性

結果系：**物の出来栄え**がいつもと違う。 手直しが多い、少ない、
初めての不良モード
→**学修成果**、**授業改善アンケート**
立命館大学(学びと成長レポート 特別号) **＊授業外学習時間大幅な増加**

☆彡：学生のみならず、専任・兼任講師を含めた教員や事務方からの意見も重要です。

法政大学

アウトライン

- 立ち位置の確認
- **法政大学での取組みから**

  2020年度春学期「オンライン授業に対する学生対象調査」
  コロナ禍の法政大学での2020年春・秋学期の取組み(一部：例)
  Withコロナ時代を考えるワーキング
- 各大学の取組みから(日本私立大学連盟FDワークショップ)
- 今後の方向性と問題点
- まとめにかえて

法政大学

2020年12月4日(金)法政大学第9回自己点検懇談会(事務部門)

2020年度春学期「オンライン授業に対する学生対象調査」
自由記述回答の分析結果報告より、一部抜粋
報告：大学評価室IR担当(専門嘱託職員　井芹　俊太郎氏)

アンケート実施期間：2020年7月27日(月)～8月7日(金)
対象：全学部生・大学院生(通教生含む）　実施方法：Googleフォーム
回答数：8,307名(回答率：28.4%)

データ協力：**法政大学教育開発支援機構　教育開発・学習支援センター**

法政大学

抽出した「授業の工夫」トピックの類型化→評判が良かったもの

ICTツールの活用

- グループワーク等でzoomの各機能（ブレイクアウト・チャット・投票）を活用
- Youtubeを活用していた
- zoomを活用していた
- 画面共有や映像の見せ方を工夫してくれた（ホワイトボード・板書投影・電子書籍等）

双方向（教員-学生間）

- 学生が授業に参加・発言するように促してくれた
- 課題・リアクションペーパー等に対するフィードバックがあった
- 質問できる・しやすい環境であり、回答が丁寧または早かった

資料づくり

- 分かりやすい資料の配布と解説があった
- 音声による解説付き資料（パワポ・PDF等）を提供してくれた

課題・試験

- 程よい課題の量・負担感であった
- 課題の締切や試験について柔軟な対応をしてくれた

学習過程や授業時間の管理

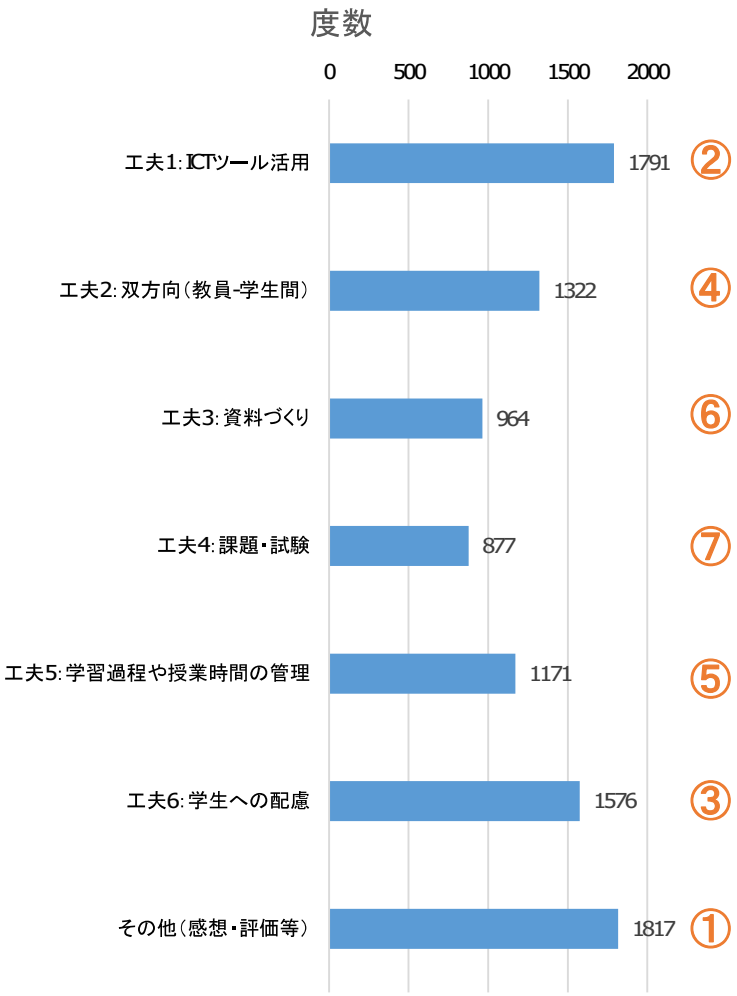
- オンデマンド、リアルタイムの使い分け・併用をしていた
- 学習ペースの管理と動機付けがなされていた
- メリハリある授業内の時間・機能配分であった

学生への配慮

- 学生同士の交流（意見交換やコミュニケーション）機会を提供してくれた
- 通信環境・システムや機器トラブルへの配慮があった
- リラックスできる・負担を感じない雰囲気だった
- 学生の心情に配慮した言動があった

抽出トピックの出現頻度

授業形態は多様化しているが、いかに安心・安全な場を学生に提供できるか否かで度数が変化



トピックの大分類	トピック名	度数	
工夫1：ICTツールの活用	グループワーク等でzoomの各機能（ブレイクアウト・チャット・投票）を活用していた	496	④
	Youtubeを活用していた	493	⑤
	zoomを活用していた	415	
	画面共有や映像の見せ方を工夫してくれた（ホワイトボード・板書投影・電子書籍等）	387	
工夫2：双方向（教員-学生間）	質問できる・しやすい環境であり、回答が丁寧または早かった	519	②
	学生が授業に参加・発言するように促してくれた	412	
	課題・リアクションペーパー等に対するフィードバックがあった	391	
工夫3：資料づくり	音声による解説付き資料（パワポ・PDF等）を提供してくれた	519	②
	分かりやすい資料の配布と解説があった	445	⑧
工夫4：課題・試験	程よい課題の量・負担感であった	480	⑥
	課題の締切や試験について柔軟な対応をしてくれた	397	
工夫5：学習過程や授業時間の管理	オンデマンド、リアルタイムの使い分け・併用をしていた	429	⑨
	学習ペースの管理と動機付けがなされていた	389	
	メリハリある授業内の時間・機能配分であった	353	
工夫6：学生への配慮	学生同士の交流（意見交換やコミュニケーション）機会を提供してくれた	460	⑦
	通信環境・システムや機器トラブルへの配慮があった	423	
	リラックスできる・負担を感じない雰囲気だった	371	
	学生の心情に配慮した言動があった	322	
その他（感想・評価等）	分かりやすい説明だった	605	①
	対面と変わらない授業の質を維持してくれた	424	⑩
	理解ができた・深まった	421	
	授業に工夫が感じられた	367	
命名困難（数字・英文等）	命名困難①	385	
	命名困難②	357	
	命名困難③	385	
	合計	10645	

自由記述欄一部抜粋(トピックを含む確率が高い原文から内容を端的に示す原文を抽出): ICTツールの活用

- zoomのグループに分ける機能で**グループディスカッション**をしたり、アンケート機能を用いて**その場でアンケート**を取って提示したりなど、**オンラインならではのスムーズな授業**であった。

  ＊授業環境の安心・安全

- zoomのチャットやアンケート機能を使って**思った事などを気軽に発言**でき、オンラインでも**他の学生や先生とのやりとりを身近に感じる**ことができた。

  ＊コミュニケーションの安心・安全

※元の文意を損なわない範囲で、誤字・脱字等を井芹ら修正済み。

＊ゴチックの選定は報告者(川上)による。

法政大学

自由記述欄一部抜粋(トピックを含む確率が高い原文から内容を端的に示す原文を抽出): 双方向(教員-学生間)

- **毎回質問や感想**を授業後にテストアンケート機能で聞き、**次回までにすべて目を通し**て、**次回の授業でその質問や要望などに答えて授業を毎回よりよく改善**していた点。
  ＊**授業環境の安心・安全**
- **質問する時間を授業後にとってくださり**、また**メールでの質問**も受け付けてくださったため、**質問をためらわずにする**ことができた。
  ＊**コミュニケーションの安心・安全**

※元の文意を損なわない範囲で、誤字・脱字等を修正済み。

＊ゴチックの選定は報告者(川上)による。

法政大学

自由記述欄一部抜粋(トピックを含む確率が高い原文から内容を端的に示す原文を抽出): **双方向(教員-学生間)**

- **実際に会って話すことは出来ない私たち**の為に、交流の時間というものを設けて**学校生活や就活などについて話す機会**を与えてくれた。

  ＊授業環境の安心・安全

- 掲示板を使って**学生同士の意見交換**を自由にすることができ、**オンライン授業で不足**しがちな学生間の**コミュニケーション**を取る場を作ってくださった点。

  ＊コミュニケーションの安心・安全

※元の文意を損なわない範囲で、誤字・脱字等を修正済み。

＊ゴチックの選定は報告者(川上)による。

法政大学

自由記述欄一部抜粋(トピックを含む確率が高い原文から内容を端的に示す原文を抽出): **学生への配慮**

- テストや課題の公開が遅れたときに期限を延長する、**通信環境や機械トラブルなどが原因でテストを受けられなかった場合を考慮**して代替レポートを設ける、といった**柔軟な対応**をしてくれていた。

  ＊心理的な安心

- **オンラインテスト**においては、ネットワーク環境によるさまざまな問題が起きた場合に**とるべき行動を細かく示し**ていたので安心してテストに臨むことができた。

  ＊心理的な安心

※元の文意を損なわない範囲で、誤字・脱字等を修正済み。

＊ゴチックの選定は報告者(川上)による。

法政大学

「オンライン授業に対する意見」の自由記述から トピックの類型化

No.	対象	意見分類	トピック名	対象別度数	対象＊意見分類別度数	度数	
1	組織	苦情・抗議	学費（授業料・施設設備費）・費用対効果に対する不満	③ 1436	497	497	②
2	組織	疑問・要望	Hoppiiの改善要望（表示機能・通知等）		③ 939	405	③
3	組織	疑問・要望	秋学期授業方針・方法に対する疑問・要望			315	⑩
4	組織	疑問・要望	大学・学部学科等レベルの対応に対する疑問・要望			219	
5	学習	困りごと	学習意欲の変化・授業実施方法による違い	② 1813	② 1132	337	⑤
6	学習	困りごと	授業の理解が難しかった、深まらなかった			321	⑧
7	学習	困りごと	学習の意味づけが困難（目的不明・フィードバックがない等のため）			271	
8	学習	困りごと	オンライン学習環境の制約問題（印刷・テスト受講・実験環境等）			203	
9	学習	評価	通学不要のメリット（移動時間削減・時間の有効活用等）とデメリット		681	385	④
10	学習	評価	学習上のメリット（効果・効率・ペース管理等）			296	
11	授業	苦情・抗議	課題の量およびそれに伴う心身の負担問題	① 3056	① 1664	610	①
12	授業	苦情・抗議	配布資料・教材の問題			327	⑦
13	授業	苦情・抗議	質問対応の問題（できない、しづらい、回答がない等）			302	
14	授業	苦情・抗議	授業・教員間の対応の差の問題			227	
15	授業	苦情・抗議	学生に対する言動・対応の問題			198	
16	授業	疑問・要望	授業に関する改善要望		635	302	
17	授業	疑問・要望	課題・期末レポートの負担、評価方法への疑問			333	⑥
18	授業	評価	授業実施方法に関する意見		④ 757	261	
19	授業	評価	オンライン授業の質への疑問・不満			252	
20	授業	評価	良かった授業・教員と悪かったそれらとの対比			244	
21	その他	困りごと	通信環境、端末、使用ソフトの問題	④ 633	633	320	⑨
22	その他	困りごと	友達の不在、友人関係の構築が困難、通学願望			313	

※2）**度数の赤の濃淡は、列ごとの相対度数による**。
※3）25のトピックを抽出したが、
そのうち命名困難である3つは除外した。

自由記述欄一部抜粋(トピックを含む確率が高い原文から内容を端的に示す原文を抽出): **抗議・要望等**

- 講義の内容ではなく、講師の**ＰＣスキル**によって理解の差が生まれており、大学側として講師にＰＣスキルの向上のための**研修**を実施するのは**最優先事項**ではないのではないか。

  ＊受講の心理的な不安

- しっかりと提示されている授業も多かったが、**オンライン授業での評価基準**をそれぞれの**授業で提示**してほしい。

  ＊受講の心理的な不安

S	大幅に上回って達成
A+	多少上回って達成
A	達成
B+	達成に少し届かず
B	達成に届かず
C	達成に大幅に届かず

＊**個人情報**(学生証番号・氏名)が見えてしまう、「学習支援システム」のアップロードの容量、通信環境の改善等、多くの要望も出ています。

※元の文意を損なわない範囲で、誤字・脱字等を修正済み。

＊ゴチックの選定は報告者(川上)による。

法政大学

学修成果の把握

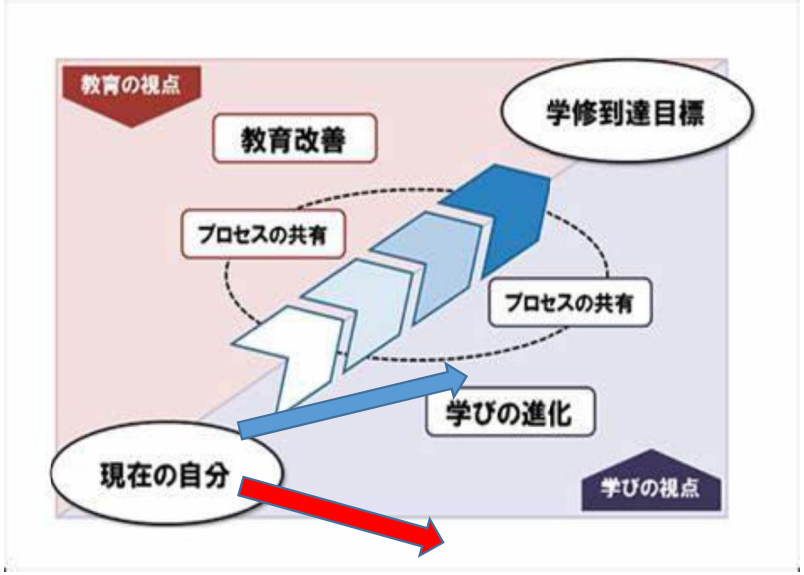
厳格な成績評価をいかに、新常態で実現するか、
課題も多い現実

・直接評価：テスト(個別、標準)、レポート、ポートフォリオ、卒業論文

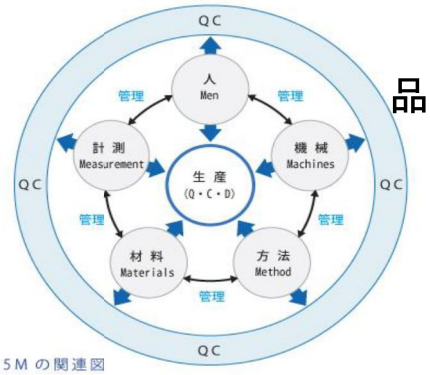
＊学習者の知識や能力を**直接的なエビデンス**に基づいて評価

・間接評価：学修行動調査(学生調査)

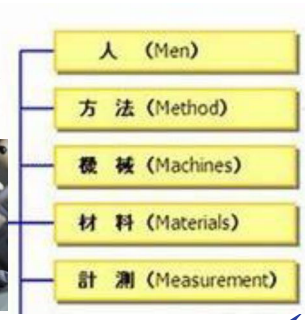
＊学習者の知識や能力に至る過程を**間接的なエビデンス**に基づいて評価



コロナ禍での学生の**異常要因(傾向)**を**正確**に把握



品質管理での計測



法政大学

自由記述欄一部抜粋(トピックを含む確率が高い原文から内容を端的に示す原文を抽出): **困りごと等**

- 最初はパソコンから受講したが、途中で落ちてしまい別の端末から入り直したいときに、**入室を許可してもらえなかった**。

  ＊教員対応への心理的な不安・不満

- ネットでつながればいいじゃないかといわれますが、**全員がそうだと思わないでください**。

  ＊教員対応への心理的な不安・不満

☆彡：教員の授業内での**「何気ない」言動**が、表れているのも事実です。

「新常態」では、より緻密な対応が必須

※元の文意を損なわない範囲で、誤字・脱字等を修正済み。

＊ゴチックの選定は報告者(川上)による。

法政大学

法政大学 **Withコロナ時代の教育を考えるワーキング**

2020年09月09日設置
内容：変動する新型コロナ感染症の感染状況のもと、**Withコロナを前提**とした教育活動のあり方、展望、可能性について**全学的な検討**を開始する。

（1）短期的課題の検討：春学期授業の振り返りと秋学期授業に関わり**早急に解決すべき課題の抽出**検討。
（2）中・長期的な課題の検討：Withコロナ時代において、**質を堅持しながらオンラインと対面を併用した教育活動を継続**するための方策について検討。

ワーキングチームの構成：担当常務理事、教育開発支援機構長、**大学評価室長**、**オンライン化システム構築検討チーム座長**、教育開発・学習支援センター長、学部長から2名、学務部長、教学企画室長、協力事務

法政大学

法政大学 Withコロナ時代の教育を考えるワーキング

2020年10月15日　中間報告
検討の為の**所与の条件**の確認
外的条件：**感染症の拡大予防**への対応、法的規制の確認、**入国制限**への対応
内的条件：2021年度**時間割編成スケジュールへの配慮**、学生生活にかかる配慮、配慮を要する学生の存在、時間割編成上の制約、教室配置上の制約、各種関連規定による制約、システム上の制約、体制の課題
2021年度**授業実施方針**の確認
2021年度授業実施に必要な検討要素

法政大学

法政大学 Withコロナ時代の教育を考えるワーキング

2021年1月8日(木)第6回Withコロナ時代の教育を考えるワーキング
2021年度授業実施に向けた諸課題について
1. 授業実施に係る**教員支援**:Zoom, Webexの法人**ライセンスの継続**、ハイフレックス型授業に対応する**教室環境整備**、オンライン授業の**配信サポート**、大規模オンデマンド**授業の支援**、オンデマンド型授業の**作成支援**、授業運営等の相談体制、Withコロナ時代の教育の在り方についての検討
2. 授業に係る**学生支援**:オンライン授業の受講環境(オンライン授業受講の為のデバイス支援&通信環境支援)、**オンライン授業受講の手引きの整備**、オンライン授業受講の相談体制の確保
3. 対面授業実施に向けた**感染拡大予防対策**:入構管理の徹底、学生、教職員の行動記録シート入力の徹底、教室環境の整備、学内の清掃等

法政大学

コロナ禍の法政大学での2020年春学期の取組み(一部：例)

・通信環境の整わない学部生・大学院生への機材(Wi-Fiルーター、パソコン)の無償貸与　・通信環境整備費用の補助　・大学サーバーの緊急増強
・「学習支援システム(LMS)を補完する双方向型オンライン授業ツールとして複数のシステム(Zoom, Webex, Teams)の法人契約　**・4月17日から教員支援向け「オンライン授業ニュース」の発行**　・家計急変学生奨学金の強化　・緊急支援奨学金の新設
・学生の学内雇用の拡大　・緊急対策奨学基金の新設　・学部・大学院における学費の延納制度をお知らせ　**・学習支援システムを用いて可能な限り早く授業を始める方針で、オンライン授業の試行も含め4月21日というかなり早い時期に授業を開始**
・「学費についての考え方」を公表　・「総長から皆さんへ」：図書館に行かれなくても調べ物をし、本を読む方法や読書案内など(継続中)

法政大学

アウトライン

- 立ち位置の確認
- 法政大学での取組みから
  - 2020年度春学期「オンライン授業に対する学生対象調査」
  - コロナ禍の法政大学での2020年春・秋学期の取組み(一部：例)
  - Withコロナ時代を考えるワーキング
- **各大学の取組みから(日本私立大学連盟FDワークショップ)**
- 今後の方向性と問題点
- まとめにかえて

法政大学

各大学での取り組み状況から
令和2年度オンラインFD推進ワークショップ
一般社団法人日本私立大学連盟主催
令和2年12月13日(日)14:00～17:00(オンライン開催)

テーマA: オンライン授業の現状と課題について

テーマB: 学生コミュニティ形成や学習支援・生活支援の方策について

テーマC: 対面授業等再開にかかる取り組みと配慮について

法政大学

グループ討議まとめから

テーマA:オンライン授業の現状と課題について

（1） ICTシステム等の問題

・サーバーダウンや利用料金超過を防ぐシステム**利用の最適化**
・地域差による**ネット環境**の差異
・教員による**ツールの統一性**への要望

（2） 遠隔授業に対する学生の捉え方

・**動画配信型**は対面と同等の満足度(**復習しやすい**)
・同時双方向が連続はしんどい(語学系) ＊オンデマンドはオアシス
・**資料配信型(自主学習型)**は不満が大きい
・質問しても**レスポンス**が遅い(ない)という問題
・**匿名性**を担保してほしい学生
・**通学時間**が長い学生は特にオンラインに肯定的

Quick Response

法政大学

グループ討議まとめから

テーマA:オンライン授業の現状と課題について

（3） 遠隔授業に対する教員の捉え方

・ITに弱い教員も、少しずつレベルアップ→**授業力を意識**

・オンラインにポジティブな教員もいる

（4） 今後の課題

・ハイフレックス型の授業を行うか　＊**教室環境整備**も必須(教員の負荷も大きい)

・オンラインは**学修成果**とどう結びつくのか　＊成績評価の厳格化が厳しい面もあり

☆彡:**アクティブラーニング(共同学習)要素**の取り入れ

・**スマホ利用の学生が実は多い**　＊アンケートでは現状が見えていない？

・**自己管理**できる学生とそうでない学生の差

☆彡:非常時のオンライン授業と新常態のオンライン授業を整理し、オンラインとして**適切な授業を抽出**

法政大学

グループ討議まとめから

テーマB: 学生のコミュニティ形成や学習支援・生活支援の方策について

（1） コミュニティづくり

・特に、1年生のフォローアップ(次年度以降も必須)

　＊ **1年生のコミュニティ**をどう作るか？

・**サークル、部活のサポート**(帰属意識、友人づくり)

・学生主体のコミュニティをどう作るか

（2） 学修・学生の支援

・アンケートを用いた**データ分析**(オンライン授業アンケート)

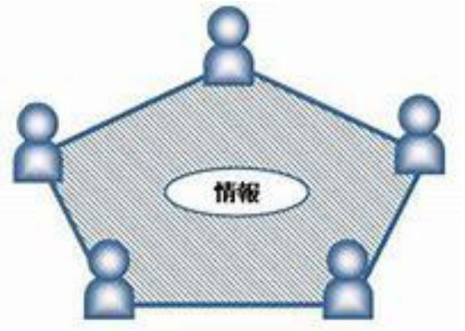
・**学習についていけない学生**をどう支援するか

　＊留学生対象のカウンセリング、アドバイザー教員を対象としたFD

　学生支援ネットワーク(学内部局の連携)

法政大学

グループ討議まとめから



テーマC: 対面授業等再開にかかる取り組みと配慮について

・各大学における春学期、秋学期の授業の状況と**課題を共有**
・各授業科目をどういった形式で行うか
・学生、教員に**どこまで配慮すべきか**(大学に行くことができないという声への対応)
・学外実習系科目において実習に**行くことができない環境での対応**の取り組み
・**常勤教員と嘱託講師への対応**の差
・**学食が一番危険**？どのように感染防止をするか？
・コミュニケーション能力だけでなく、今後は一人で**色々できる学生**が求められてくる。
　＊**コンピュータリテラシーや情報の精査能力**

学生自身の能力向上

法政大学

アウトライン

- 立ち位置の確認
- 法政大学での取組みから
  - 2020年度春学期「オンライン授業に対する学生対象調査」
  - コロナ禍の法政大学での2020年春・秋学期の取組み(一部：例)
  - Withコロナ時代を考えるワーキング
- 各大学の取組みから(日本私立大学連盟FDワークショップ)
- **今後の方向性と問題点**
- まとめにかえて

法政大学

２文科高第914号　令和3年1月5日　文部科学省高等教育局長

大学等における新型コロナウイルス感染症対策の徹底と
学生の学修機会の確保について(周知)より、

今般の感染拡大を踏まえ、感染対策をより慎重に講じた上で面接授業の実施が適切と判断されるものについては、引き続き実施を検討しつつ、**面接授業と遠隔授業を効果的に活用した質の高い学修機会の確保**や**課外・学外活動等における感染対策と注意喚起の徹底**等について、令和2年6月5日付高等教育局長通知「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて(周知)」や12月局長通知等に沿って**感染防止の徹底と学修機会の確保の両立に向けての対応を改めてお願いいたします**。

法政大学

今後の方向性（1）

面接授業と遠隔授業を効果的に活用した質の高い学修機会の確保

＊Withコロナでの経験を通して、大学教育の目的が**「知識の習得」**ではなく、それぞれの**学生の学びを、「学生、教員、職員が一緒に」**もしくは**「学生同士の学びあい」**により発見することが重要であることが確認　**☆彡：安心・安全な場の提供**

→**「知識の習得」**部分は、オンデマンド・オンラインや教材配布の方が教育効果が大きい場合もある。うまく遠隔講義を活用しながら**「学生同士の学びあい」の機会**を担保する。　＊授業時間外でのコミュニケーションの機会

☆彡：**授業という殻での工夫(必須)**と**全体の連携による融合**(新常態での環境下)**による相乗効果**

法政大学

今後の方向性（2）

大学分科会質保証システム部会でのコメントから

＊**あくまでリアルな対面授業を大切**に、前提としていくことが必要

＊オンライン教育の進展に伴って、空間依存からコンテンツなどへの依存へと転換
では、**時間のマネージメント**が重要

☆彡今年度で各授業デザインの見直しは、少し出来たと思います(FD推進)。

＊対面とオンラインの接合によって、**大学教育のイノベーション**を推進するべき
時間的な制約の中、**対面授業を大切にしながら**、オンライン・オンデマンドを利用した教育を積極的に取り入れながら、**「自大学らしさ」**を構築するかがポイント

☆彡イノベーションには、抜本的に大学教育を支えてきた各種制度の見直しが必須
＊**現行の仕組みの中**で、**出来うる「しかけ」**をいかに大学として行うか？

法政大学

今後の方向性（３－１）

大学分科会質保証システム部会でのコメントから

質保証の仕組み

・**コロナ禍での質保証システム**を機能させるためには、設置認可審査にせよ、認証評価にせよ、何のためにこのような取り組みを行っているのか、その目的や意味づけについて**大学関係者で共有し、一人ひとりが共通理解**を図ることが必要。

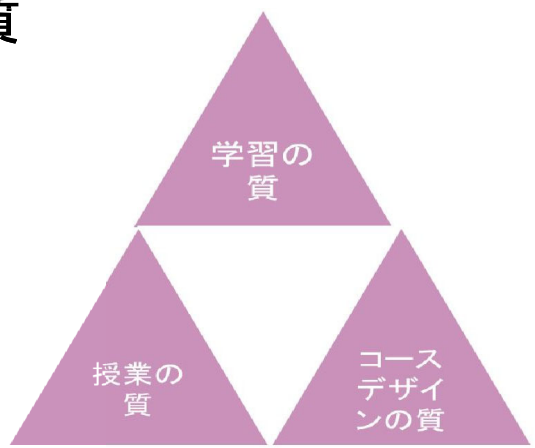
＊コロナ禍だからこそ、もう一度改めて教員個人を含めて**「教育の質保証」**をを改めて見直す。☆彡：来年度は**コロナ2年生**への対応も重要
☆彡：基礎学力の習得が少し不足している学生やオンライン授業への適合能力が不足している**学生のレベル差がさらに顕著**になり、**教員・事務方の過負荷**も懸念される。☆彡：次年度の**質保証の見極め**が重要

法政大学

今後の方向性（３－２）

２０２１年1月２１日　法政大学大学評価室セミナーより
（同志社大学　山田礼子教授）The Triangle of Success

学修成果へ繋がる三つの質
- 学習の質
- 授業の質
- コースデザインの質



当然、旧常態においても、三つの質のバランスは極めて重要であり、新常態においても、**基本は変化しておらず**、それぞれについて、改めて再検討や見直しを、**出来る範囲から実行し、自己点検・評価**することにより、十分対応可能である。ただし、新常態での**「学習の質」**の精査には、もう少し時間が必要である。

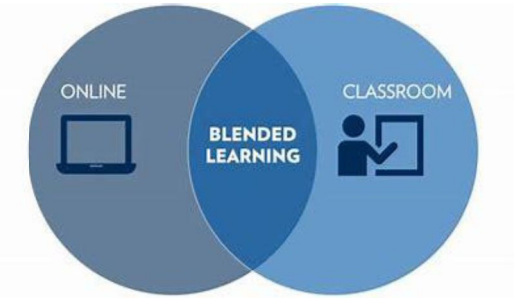
法政大学

今後の方向性（３－３）

名城大学FDフォーラム研修資料一部抜粋(2020年11月7日(土))

Web授業の観点から

＋**授業外学習時間の増大**(単位制度の実質化への接続):学生
＋**ブレンディッド・ラーニングの有効性**(反転授業含む):学生＋教員
＋**時間割と持ちコマの柔軟化(大規模講義のオンデマンド化)**:学生+教員
＋**社会人学生の獲得と新しい教育展開**(自宅学習):大学
＋補講のWeb実施(自由度の著しい拡大):学生＋教員
ー**学生の負担感の増大**(課題過多含む):学生＋教員
ー**成績評価の方法**の精査(定期試験やWeb試験の実施):学生＋教員
ー学生、教職員の**ICTサポートの負担増**:大学
　☆彡:学生・教員にはメリットもあり



ー要因の**成績評価方法**の精査については、多くの情報が出つつあり、大学により差異はあるが、ー定の改善方向に進んでいると思われる。ただし、３年後の累積GPA等の結果による評価も重要
☆彡:現段階では、コロナ１年間での経験での判断であり、手探り部分も多い(**情報からの推測**が多いのも事実)。**☆彡:段取りには時間が必要→対面とオンライン系は両極では無いことを意識**
その中で個々の授業だけでなく、コースデザインの中での全体バランスの検討(旧常態と同じ)

法政大学

今後の方向性（4）

大学分科会質保証システム部会でのコメントから
その他
・課外活動というものは、直接的に設置基準上で扱われていないものであるが、**ボランティアやインターンシップといった授業外の活動**と、いわゆる授業との境界が変わりつつある中で、課外活動の在り方を考えることも必要。

先程の文部科学省の**課外・学外活動等における感染対策と注意喚起の徹底**の厳守が重要であることは言うまでもないが、**大学や教職員だけの対応**では、やはり厳しい。体育会、アルバイト先や飲食による学生感染もあり、**根本的に見直す**必要がある。**新常態での課外・学外活動等をいかに推進**するかが、キーの1つである。

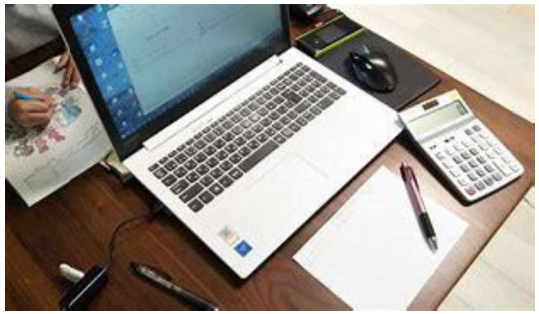
法政大学

アウトライン

- 立ち位置の確認
- 法政大学での取組みから
  - 2020年度春学期「オンライン授業に対する学生対象調査」
  - コロナ禍の法政大学での2020年春・秋学期の取組み(一部：例)
  - Withコロナ時代を考えるワーキング
- 令和2年度オンラインFD推進ワークショップでの各大学の取組み
- 今後の方向性と問題点
- まとめにかえて

法政大学

まとめにかえて（1）



コロナ禍がもたらした社会変化

・ソーシャルディスタンス　・マスクの重要性　・医療資源の不足　・PCR検査
・新型コロナウイルス治療薬の迅速承認　・学生支援緊急給付金　・持続化給付金
・雇用調整助成金、東京オリンピック・パラリンピックの開催延期　・学校休講
・大学のオンライン授業　・教育格差　・授業料問題　・入試制度　・卒論・修論・対応
・学生コミュニティーの崩壊　・学会開催方法　・学内会議　・テレワークの推進
・緊急事態宣言――

＊項目を列挙すれば、いかに、教育、家庭、医療、産業、仕事、行政や生活環境に多大な影響を及ぼしたかは明白　☆彡コロナ1年目は、苦労の連続

法政大学

まとめにかえて(2)

コロナ1年目前半

全授業でオンライン化授業を経験(例外無きオンライン化)

＊何とか授業を成り立たせることが目的化？　自分も必死でした！

こんなに休みなく、授業準備に時間を費やしたことはありません。

☆彡:ただし、授業形態や手法の熟練度(クラスデザイン含む)により、学生の満足度や理解度に差異が発生

＊あくまでも平均化された意見ですが、各種アンケート結果からも明白

教員個々の「振り返り」も重要

ただし、コロナ対応に奔走しながらの結果であることも意識

法政大学

まとめにかえて(3)

コロナ1年目後半

オンライン・オンデマンド授業の創りこみや一部対面授業が再開

＊大学での組織的な取組みや教員個々にも情報の共有化による「若干のゆとり」が発生

オンライン・オンデマンド授業と対面授業を両極とせず、メリット・デメリットを「肌感覚」で多くの教職員が共有→後半のアンケートや成績評価に反映？

☆彡：この「肌感覚」の部分は、学生も実感している。

＊教員個々の授業の「わかりやすさ」がより、顕著化→対応可能！

法政大学

まとめにかえて(4)

コロナ2年目以降(新常態)に向けて
・オンライン・オンデマンドと対面授業の効果的な融合(同期・非同期の混合)
☆彡:ある程度の手法の理解とハードも必要ですが、イメージは可能
→2年目以降は、地道＆継続的な「振り返りと確認」が必要
教員間連携、学科連携、学部連携や大学間連携も必須

＊安心・安全な「教育の場」を学生と一緒に創る
☆彡:科目、分野や手法で共通項も多数あり
→他大学の情報も活用(個人含む)。

法政大学

まとめにかえて(5)

コロナ2年目以降(新常態)に向けて

・ハイフレックス型授業への対応(同教員が、同時に、対面とオンラインの両方で授業を実施)

＊大阪大学全学教育推進機構HPより、

オハイオ州立大学　エドワード・J・マリニー教授

ダートマス大学　ヨシュア・キム教授

「秋学期以降の15のシナリオーソーシャル・ディスタンス時代における高等教育ー」

☆彡:このモデルは同期型学習を重視する傾向があり、それをうまく行うには、授業内のリアルタイムの手助け(例えば、TAやオンライン上の学生を管理するための授業アシスタント)や、意図的にデザインされた教室環境、そして学生と教員両方から多大な忍耐が必要です。

法政大学

まとめにかえて(6)

2021年度の準備は始まっているが、昨年度の春学期
と**同レベル(同教材や手法での実施)では、新常態への対応は厳し**い。
＊今年度以上の授業への**対応の精査と評価方法の厳格化**が必要

☆彡：同期・非同期・混合のいずれにせよ、「コミュニケーション」の場をうまく設けながら、学生に考えさせる「問い」を提供しつつ、まずは、2年目の「新常態」に教員個人は、**「出来るところから」すぐに始めなければならない**状況

良かれと思っている手法も、確認が必須(自分の授業の範囲内で十分です)
＊今後の社会的な**コロナ動向が不透明であり、影響因子が多い**のも事実

法政大学

最後に1つだけ、「新常態」における大学教育

新常態でも、

「良い」授業は一つではない。教師も学生も多様だ。両者が出会って作る、多様な授業のストーリー。

金子元久氏（元日本高等教育学会会長、筑波大学大学研究センター　特命教授）

＊新常態における大学教育の向上を目指して、学生と一緒に出来る範囲で、その場観察しながら、一歩ずつ「授業デザイン」を楽しみながら実践することが必要

法政大学

ご清聴ありがとうございました。
私も「新常態」に向けて頑張りたいと思います！

お気づきの点、ご質問は kawakami@hosei.ac.jpまで、お願いします。

法政大学